

先導的ＩＴスペシャリスト育成推進プログラム				
高度なソフトウェア技術者育成と実プロジェクト教材開発を実現する融合連携専攻の形成				
		責任者	期日	
基礎ソフトウェア工学科目群				
	各大学院のシラバス	各大学代表	10月末	
	全体の一覧作成	阪大S	11月中旬	
先端ソフトウェア工学科目群				
	各大学院のシラバス	各大学代表	10月末	
	全体の一覧作成	阪大S	11月中旬	
	撮影	各大学代表	3月末	各大学で最低5コマ
	WG立ち上げ	沢田(京大)	済	
実践ソフトウェア開発科目群				
	補助教員手配	各大学代表	2月末	将来、各大学院で同様な授業が展開できるよう、若手教員を派遣して、授業のノウハウを習得する。
	WG立ち上げ	津田(日立SAS)	済	
	授業内容の確定	津田(日立SAS)	11月中旬	
	TA等アサイン	阪大S、各大学	2月末	
	非常勤手続き	阪大S	11月	
	中之島センター手配	阪大S	11月	秋山さんに依頼済み
評価体制				
	評価WGの設置検討	井上	10月末	外部評価委員会、定量的評価法、学生アンケートの実施等
	外部評価委員会	井上	10月末	人選とスケジュール
広報				
	WEB(外部)	阪大M	10月末暫定、1月ぐらいちゃんとした版	
	WEB(内部)	阪大M	暫定版済、1月よりちゃんとした版	
	全体パンフレット	阪大M	12月末	刷り上り
	各大学パンフレット	各大学代表	1月末	
	プレスリリース	阪大M	10月末	
教務関係				
	人数調整	阪大S	3月までに事前調整	
	募集要項作成	各大学代表	1月末、入試募集要項時期	各大学のパンフレットと兼用可能か
	学生の登録	各大学代表	4月上旬	できるだけ早急に阪大Sに連絡
	学生の単位管理	各大学代表		実践ソフトウェア開発科目は阪大より各大学に通知
	プログラム修了証の発行	阪大研究科長、阪大S	2008年3月	修論を含まず、3種授業科目で発行する。
契約関係				
	9大学院連携協定書	阪大M、各大学代表	できるだけ早急に、今年中をめど	京大は独立協定
	企業との契約書	阪大M、各企業代表	できるだけ早急	無償の共同研究契約？

実プロジェクト教材開発				
	教材開発WG1(開発手法)	鯨坂(和歌山大)	設置済	今年度予算発注。要求分析、設計方法論、計3種。大学教員参加して、教材作り参加してもらう
	教材開発WG2(開発データ)	松本(奈良先端大)	済	実際の開発作業のデータ収集、分析し、教材化
財務関係				
	担当	楠本(阪大)	済	
運営体制				
	運営委員会委員	運営委員	第1回 H18年10月10日	各大学、企業から運営委員1名、運営委員長、幹事(各WG長、財務担当、等)で幹事会。立ち上げ時は月1回程度の委員会が必要か